

卒業生向けの証明書発行について

● 各証明書の種類と手数料

種 類	手数料	備 考
卒業証明書(和文)	200円	
成績証明書(和文)	200円	
大学院修了証明書(和文)	200円	
学位授与証明書	200円	大学院後期課程修了者が対象 発行に1~2週間程度要します。 ※申請の際には「学位授与証明書交付願」が、別途必要となります。 ホームページより「学位授与証明書交付願」フォーマットをダウンロードしてご利用ください。
単位修得証明書(受験・危険物等)	200円	発行依頼の際には、資格名を明記してください。 種類により発行には2週間程度必要となることがありますので、 郵送での申請手続きをお勧めします。
建築士試験 指定科目修得単位・卒業証明書	200円	
卒業証明書(英文)	600円	英文各種証明書の発行には2週間程度必要となることがありますので、 郵送での申請手続きをお勧めします。
成績証明書(英文)	600円	
大学院修了証明書(英文)	600円	
学力に関する証明書	1,000円	証明書を申請される前に、教務課までお問い合わせください。

※上表以外の証明書の発行が必要な場合は事前に教務課までお問い合わせください。 ※厳封を希望する場合は、申請書に明記してください。

「個人情報保護法」の全面施行に伴い各種証明書の発行に際し、本人確認のため
身分証明書(運転免許証、健康保険証、パスポート等)の提示や委任状の提出等をお願いしております。

● 郵送による手続き

次の4点の必要書類を同封の上、下記の宛先へ郵送してください。

必要書類	注意事項
1.申請書	ホームページより 「証明書交付願」フォーマットを ダウンロードしてご利用ください。
2.申請者を証明できるもの のコピー	運転免許証、健康保険証、 パスポート等のコピー
3.証明書手数料分の 定額小為替証書	郵便局で発行 切手では申請できません。
4.返信用封筒	あて先を明記し、 返信用切手を貼付してください。

送付先

〒275-8575 千葉県習志野市泉町1-2-1
日本大学生産工学部 教務課 宛

※証明書は、申請書類到着後、一両日中に発行し返信用封筒にてお送りいたします。
ただし、郵便事情等もありますので1週間程度の余裕をもって申請してください。

● 窓口での申請手続き

教務課窓口前の証明書自動発行機で申請書を発行し、
必要事項を記入の上窓口申請してください。

設置場所	津田沼キャンパス 1号館 (事務棟) 2階 教務課
利用時間	月～金曜日 9:00～18:00 土曜日 9:00～13:00 日曜日 利用不可

※上記の取扱時間は、行事等で変更または休止になる場合がありますので、
事前にホームページにてご確認ください。

日本大学生産工学部の
ホームページからもご案内しています。
詳細は、ホームページで確認してください。
<https://www.cit.nihon-u.ac.jp/>
電話・FAX・WEB上での申請手続きは行っておりません。



※代理人が申請する場合は、委任状や別途代理人の方の身分証が必要となります。
詳細はホームページで確認してください。

SPRING

日本大学生産工学部【スプリング】2022 3月号

学 部 長 メ ッ セ ー ジ
M E S S A G E
FROM THE DEAN

新しい生活への転換には 日本大学での貴重な 体験を生かして、 激変する経済、社会情勢に 果敢に立ち向かってください。

【日本大学生産工学部 学部長】

澤野利章

Toshiaki Sawano



令和3年度学部卒業生ならびに大学院修了生の皆さま、卒業・修了誠におめでとうございます。ご家族の皆さまのお慶びもひとしおのことと心よりお慶び申し上げます。

皆さんは4年前または6年前に入学したときには期待と希望に胸をふくらませて、普通の大学生としての学生生活が始まったことと思います。しかし皆さんのこの2年間の学生生活は新型コロナウイルス感染症に翻弄されてしまい、これまでの普通の学生生活とは大きく変わらざるを得ませんでした。令和2年度の授業は1ヶ月遅れのオンライン授業で始まりましたが、通信環境やパソコンのスペック、新しい学習支援システムの導入や変更などこれまでに経験のないこと、不慣れなことに挑戦しなければなりません。しかし、このような急激な学習環境の変化にもかかわらず、大混乱に陥ることなくオンライン授業を開始することができ、さらに乗り

切ることができたことは皆さんの高い能力としなやかな柔軟性、多くの努力の賜であります。一時的に感染拡大が沈静化することはあったものの、令和3年度に入ってから、緊急事態宣言が発せられる日々が続き、外出の自粛、時差通勤、リモートワークが求められ、大学もそれに従って時差通学やオンライン授業を続けて参りました。そのような中でも卒業研究、大学院の特別研究などの実験実習科目などは入構の人数の制限と感染対策を講じた上で、できる限りの対面の授業への移行、ハイブリッド型の授業も実施してきました。皆さんには入構観察システムへの入力をお願いして参りましたが、幸いにも大学内からの感染拡大や大きなクラスターが発生しなかったことは、皆さんの協力があってのことと、心から感謝しております。

この2年間を振り返ってみますとこれまでは全く考えることもなかったデジタルトランスフォーメーションによる社会変化の真ん

中に突然投げ込まれてしまった時代でもあります。皆さんはこのような激変の学生時代となってしまいましたが、この困惑の経験を転じて貴重な経験と考え、今後の強みとして成長・活躍されることを期待しております。

日本で唯一の「生産工学部」の誇りと強み

皆さんは学部在学中に生産工学部にしかない科目として、生産工学系科目を履修しました。この生産工学系科目は、生産実習をはじめとして、技術者倫理、経営管理など他大学、他学部にはない独自のカリキュラムにより「経営がわかる技術者」として卒業・修了されます。加えて実学を重視した実験や実習・演習などの多くの実技科目では少人数のグループでの課題解決に取り組み、学生同士や、教員とのコミュニケーションを通して、専門知識に加えて社会人としての基礎力も養われたことと思います。したがって皆さんは「経

営がわかる技術者」としての要素が身についていることを意識して、日本で唯一の生産工学部・生産工学研究科の卒業生・修了生であることに自信と誇りを持って新しい活躍の場で自分の道を切り拓いていってください。

皆さんが活躍する 激動の社会

我が国は2030年問題として議論となっている少子高齢化と生産人口の減少が加速し、経済活動、特に産業構造の改革や働き方改革が急務となっています。加えて全世界的な問題としてカーボンニュートラルや持続可能な世界をSDGs、IoT、ビッグデータ、AIなどをキーワードとして新たな市場が次々に出現しています。さらに我が国が目指すべき未来社会としてSociety5.0が提唱されました。コロナ禍によりこれらの流れは一層急加速されさまざまな変革が押し寄せ始めていることを十分に感じていると思います。

本学を卒業・修了する皆さんは、どのような社会環境下においても責任ある行動をとることができる技術者としての素養がすでに備わっておりますので、さまざまな目標に向けて、真摯に取り組んで行くこと、挑戦していくものと期待しております。

日本大学の「絆」

卒業、修了後は日本大学の「絆」を大いに活用してください。日本大学には130有余年の伝統と歴史、ほかには類を見ない約120万人の校友、そして生産工学部は2022年には創立70年を迎え、長い歴史と約8万人の校友がいます。日本大学の校友は卒業した皆さんを新しい社会人・校友の仲間として常に歓迎していますので、このスケールメリットを十分活用して、今後は多くの校友とつながり、「絆」をもって、共同・共働で社会に貢献してください。日本大学の卒業生・修了生としての大きな

自信と誇りを持って激動の時代に立ち向かい、大きく羽ばたき、活躍されることを心より祈念して「卒業生・修了生に贈るメッセージ」といたします。卒業そして修了おめでとうございます。

SPR *ing* / No.117 March 2022 C O N T E N T S

02	学部長メッセージ
04	4年間の重大ニュース
06	4年間のBest of Memory
12	学生の活躍
17	卒業生に贈るお祝いの言葉
18	学科・系ニュース
23	Information

もっと知りたい！

4年間の

重大ニュース

CATCH-UP NEWS



TOPIC 平成30年9月 記念 01 環境安全工学科・創生デザイン学科が創設10周年を迎えました。

平成30年に学科創設から10年を迎え、平成30年9月29日に環境安全工学科・創生デザイン学科創設10周年記念祝賀会を開催いたしました。両学科の卒業生約220名、校友会役員と教職員約150名の方々にご出席いただき、盛大に創設10周年をお祝いしました。

今後も教職員一同、卒業生の社会でのさらなる活躍を期待し、支援して参ります。また、在学生の教育・指導及び研究に邁進していく所存です。次の20周年は皆さんとお祝いしましょう。

TOPIC 令和3年7月・8月 大会 03 生産工学部の津田沼航空研究会が鳥人間コンテスト2021・滑空機部門で三位に入賞しました！

令和3年の鳥人間コンテストは津田沼航空研究会にとって特別な大会になりました。平成29年と30年の連続優勝の重圧、令和元年の記録低迷、そして令和2年の大会中止と様々な経験を経ての大会でした。いろいろな思いが交錯するプラトホームからビックフライトが飛び出し、みごとに第三位の成績を収めました。記録は265.47 mで、自己最高記録の446.42 mを超えることができませんでしたが、コロナ禍による入構制限で機体製作時間が足りないという条件下で出した立派な記録です。これからも部員が一丸となって、機体製作と飛行訓練に頑張ります。是非、応援をお願い致します。



TOPIC 令和2年5月 COVID-19 02 新型コロナウイルスの感染拡大を防ぎながら、最大限有意義な学生生活を送れるよう、柔軟かつ的確に多様な対策を進めています。



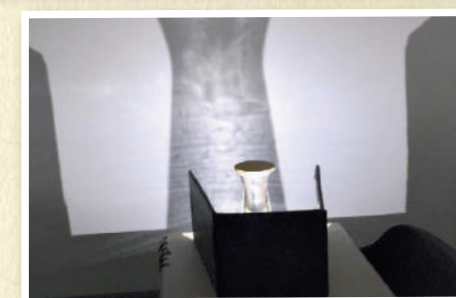
生産工学部では検温や手指の消毒に加え、直近8日間(現在4日間)の体調を確認し、必要に応じて保健室看護師が健康チェックを行います。「日本大学健康観察システム」を活用した独自の対策をしています。対面授業では、文部科学省のマニュアルに沿った対策を徹底し、着席可能な机を明示。登校と在宅学習を組み合わせる授業や、複数の教室に同じ映像を配信する授業も含め、教室ごとの収容人数も調整してソーシャルディスタンスを保っています。一方、オンライン授業は、指定の日時にリアルタイムで行う形式と、教員が作成した教材を好きな時間に閲覧する形式の2パターン。Wi-Fi環境の整った自習スペースも用意しています。

また、2カ所の学生食堂では、飛沫の拡散防止、ソーシャルディスタンスの確保、黙食の3点を徹底。部活動やサークル活動、学外での各種学習プロジェクトは、十分な対策が確認でき次第、条件付きで再開を認めています。



TOPIC 平成31年4月 プログラム 04 「好奇心からイノベーションへつなげるモノづくり人材育成プログラム(STEAM-to-BE)」を導入！

STEAM-to-BE は、科学・技術・工学・数学の総合的教育である STEM に芸術的要素(Art)を取り入れたモノづくりプログラムです。講義やグループ学習を中心とする演習を通して、観察力、想像力および表現力を身に付け、問題発見・解決スキルを高めるとともに、モノづくりの技術を結びつけて商品などの提案力を育むことを目的としています。本プログラムの受講生平岡遼太郎さんが、授業内で制作した作品「Sugar Falls」が、第4回学生照明展(令和2年3月開催)で最優秀賞を受賞しました。



卒業生に聞きました！

私の4年間の

最高の思い出！

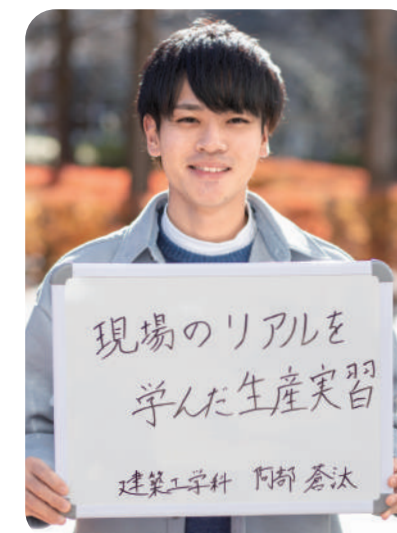
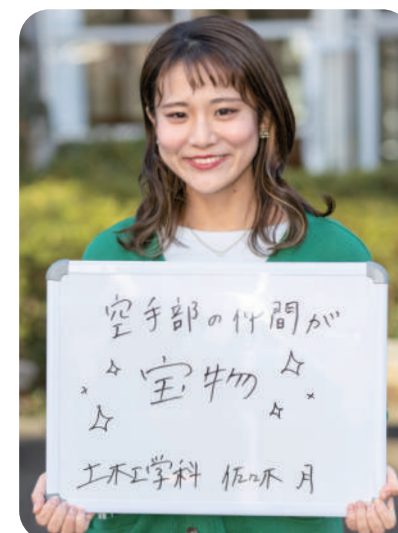
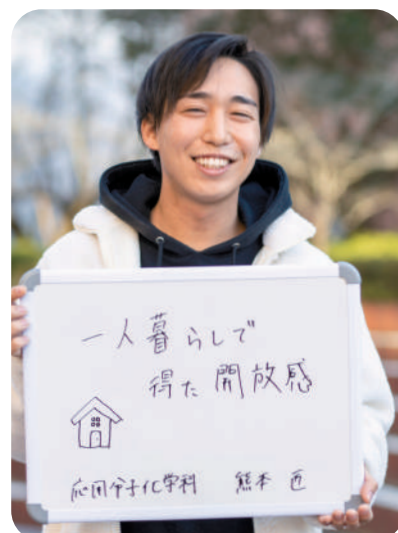
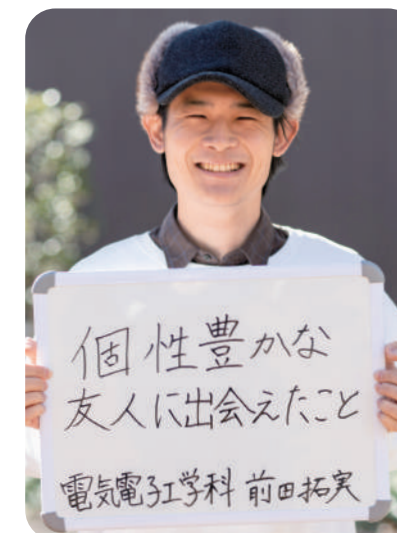
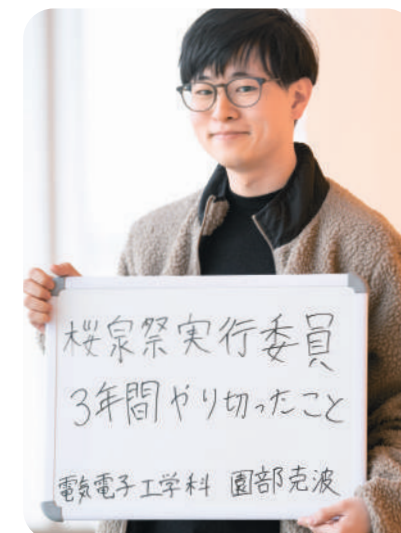
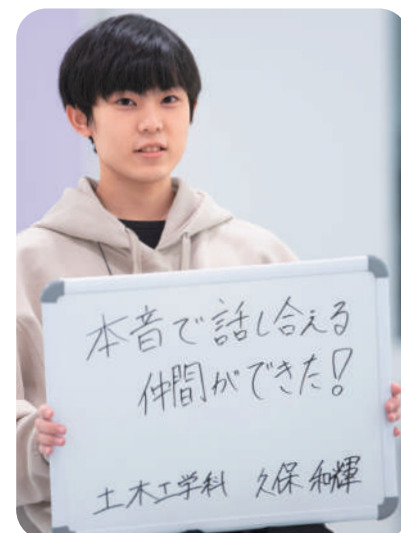
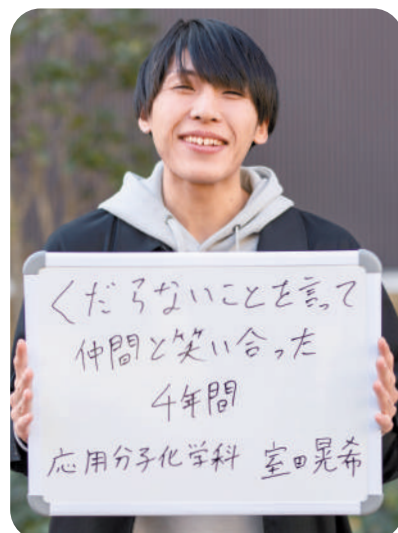
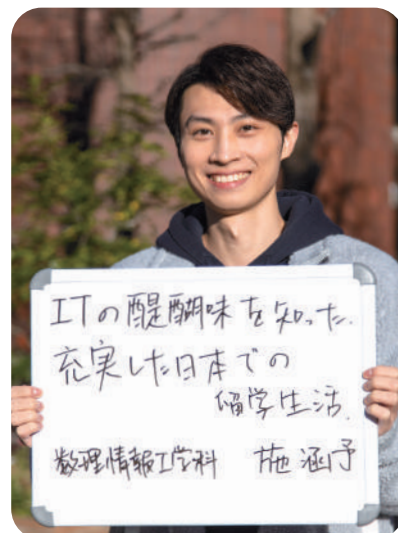
Best of Memory

知っている人を探してみよう

ボードに
書いてもらったよ！



つらいことも楽しいことも盛りだくさんの大学生活は、かけがえのない財産。
今回は、今年卒業を迎える4年生54名の「最高の思い出」を聞いてみました。



卒業生に聞きました！

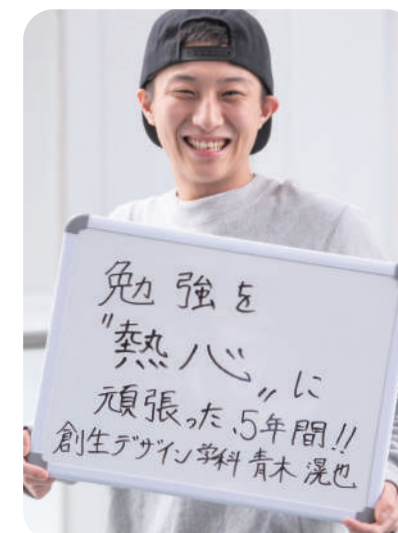
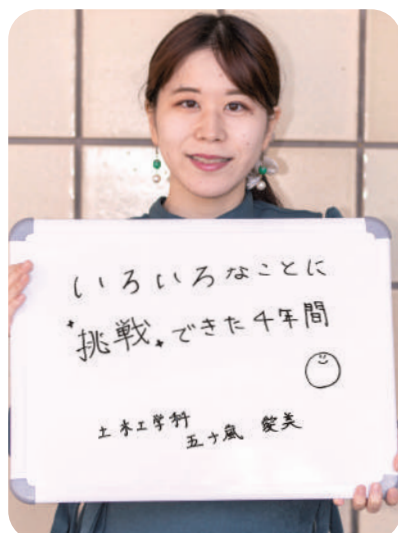
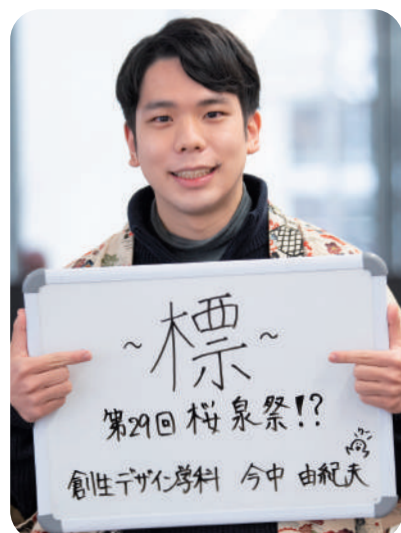
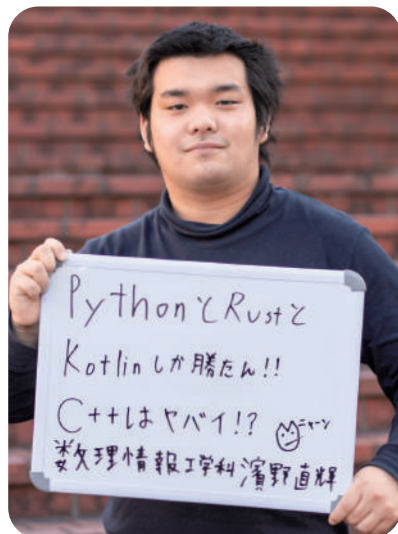
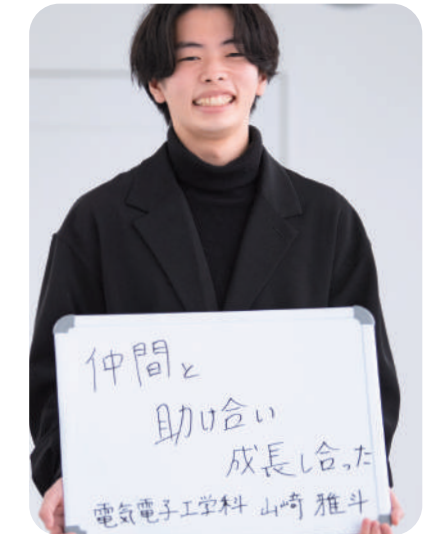
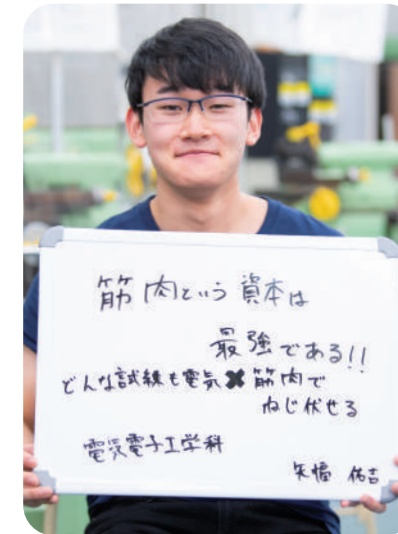
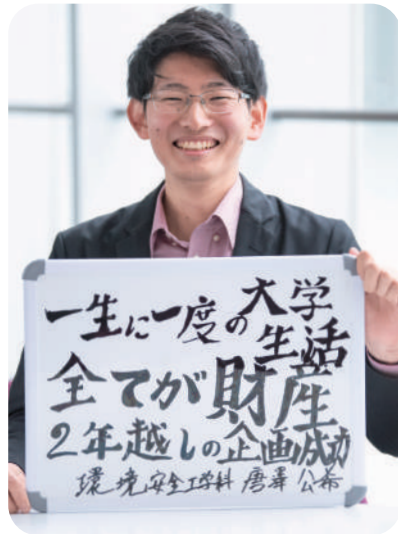
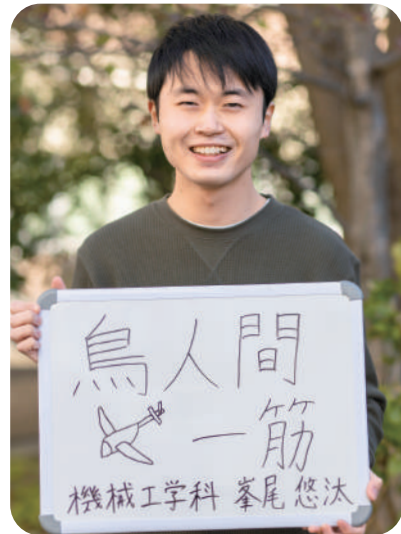
私の4年間の

最高の思い出！

Best of Memory

それぞれの
思い出がたくさん！

知っている人を探してみよう



卒業生に聞きました！

私の4年間の

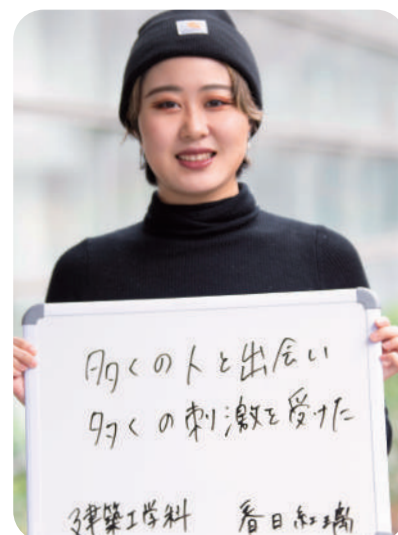
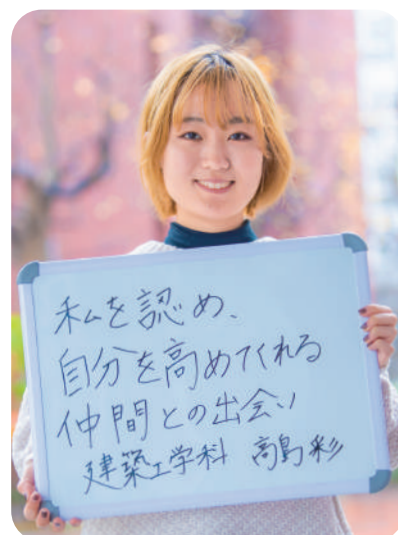
最高の思い出！

Best of Memory

この4年間の
忘れません！



知っている人を探してみよう





学生の活躍 Activities of Students

軽金属学会141回

秋期大会優秀ポスター発表賞受賞

【機械工学専攻】

伊野宮 匠 Takumi Inomiya

令和3年11月13日に開催された(社)軽金属学会141回秋期大会において久保田研究室大学院1年生の伊野宮匠さんが発表した「粉末冶金法によるMg-Ti系材料の創製およびその特性」が優秀ポスター発表賞を受賞しました。大学院生71件の発表中、11件の1つに選ばれました。受賞おめでとうございます。



賞の受賞、論文掲載、部活動での入賞など、学生たちは数々の課外活動で、目覚ましい活躍を遂げています。ここではそんな学生たちの主な実績を紹介していきます。

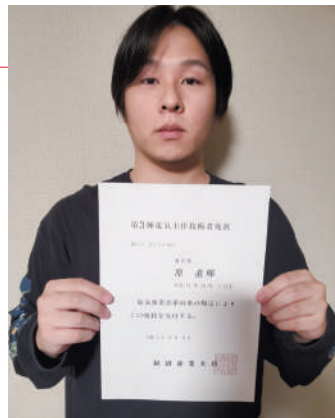
学部4年生の原直輝さんが

第三種電気主任技術者に合格しました

【電気電子工学科】

原 直輝 Naoki Hara

学部4年生の原直輝さんが第三種電気主任技術者に合格しました。電気主任技術者は電気設備の保安監督者として置くことが法律で義務づけられている技術責任者であり、社会的評価が非常に高い資格です。令和3年度の第三種電気主任技術者試験の合格率は11.5%と低い難関資格となっており、資格取得のためには多くの努力が必要となります。



鳥人間コンテストで引き継がれた翼

【機械工学科】

傍島 佳也 Yoshinari Sobajima

平成30年の夏、鳥人間コンテストで優勝した先輩達を見た私は自分も優勝したいと強く思うようになりました。しかし、自分達が設計製作した機体が飛ぶ令和2年は感染症の流行によって大会が中止となりました。そんな中、未完に終わった自分達の機体の一部を使用して令和3年大会では後輩たちが3位入賞を果たしたのです。後輩たちが自分達の思いを引き継いでくれたのだと思っています。



JABEE学生委員会

委員長としての活動

【応用分子化学科】

大園 樹 Itsuki Oozono

私はJABEE学生委員会委員長として、学生と教員との架け橋となるべく学生の率直な意見や要望をワークショップで伝え、より良い授業への改善を求めました。また、新入生が疑問・不安に思うことやJABEE学生が先輩に聞きたいことを募集し、安心して大学生活を送れるようアドバイスをする活動も行いました。



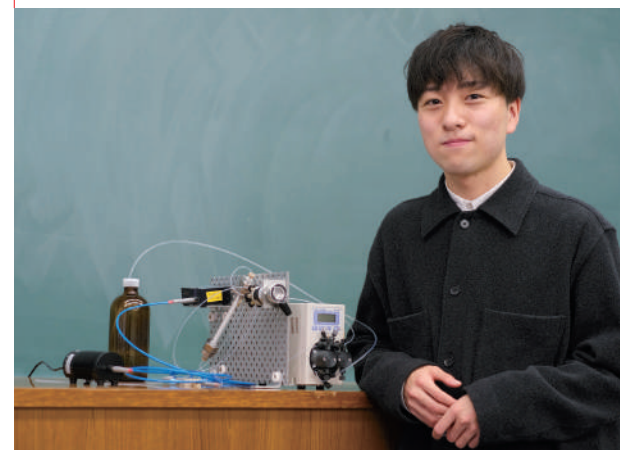
化学物質の分離現象を

実際に教室で見ても学んでもらいたい

【応用分子化学専攻】

大南 樹生 Tatsuki Ominami

化学は原理を教室で学んでも実際にどんな現象が起こるのか想像しにくい。また、危険な薬品を使う実験も多く、教室ではなかなかできないのが現状です。そこで、私は環境調和型溶媒を使って化学物質の分離現象を視覚化できる可搬型実験装置を開発しました。この装置は分離現象を観察できるだけでなく、分離された物質が出てくる時間やどのような波長の光を吸収するかも測定することができます。装置づくりは苦労の連続ですが、この装置で化学を学ぶ全ての人に楽しんでもらえればと思います。



学部4年生の齋藤千稜さんが

『宅地建物取引士』資格試験に合格しました

【建築工学科】

齋藤 千稜 Senri Saitou

「宅地建物取引士」は毎年20万人前後の受験者数を誇る最大規模の国家資格です。令和3年度は、209,749名が受験し37,579名が合格し、合格率は17.9%でした。宅地建物取引業者(一般に不動産会社)が行う宅地・建物の売買、賃借の取引に対して、購入者等の利益の保護及び円滑な宅地・建物の流通に資するよう、公正かつ誠実に法に定める事務(重要事項の説明等)を行う不動産取引法務の専門家です。不動産に関する重要事項の説明等は「宅地建物取引士」しか行うことができません。



学生の活躍 Activities of Students

設計競技(コンペ)において 全国最優秀賞(第1位)受賞

【建築工学専攻】

木下 惇 Jun Kinoshita 堤 昂太 Kota Tsutsumi 荻野 汐香 Shioka Ogino

三菱地所設計設立 20 周年

学生向け特別企画「+ミライプロジェクト」

テーマ:『目抜き通り ーそして、そこにたつ建物ー』

エリアコンペ(全国6エリア別審査:関東エリア 最優秀賞)、オンライン・クリティーク、ブラッシュアップを経て、全国ファイナルプレゼンテーションにおいて、全国最優秀賞を受賞(令和3年11月3日)いたしました。審査員からは、つくる・壊すという営みが街の内外の人々に広く開かれ、それにより目抜き通りが商店街から路地へと拡張していく構成や表現が高く評価されました。(作品名『街の仕掛け人ー土溶け建築と循環する道ー』)

掲載ホームページ

<https://www.mj-sekkei.com/>

<https://www.mj-sekkei.com/20th/>

https://www.mj-sekkei.com/files/news_detail/file/710/file.pdf



写真1)技術発表大会会場の様子



写真2)齊藤光平さん

第41回防錆防食 技術発表大会で 若手技術者優秀発表賞 を受賞

【マネジメント工学専攻】

齊藤 光平 Kohei Saito

令和3年7月9日に東京都文京区の東京ガーデンパレスで開催された、一般社団法人日本防錆技術協会主催 第41回防錆防食技術発表大会において、齊藤光平さん(マネジメント工学専攻・博士前期課程修了)は「合成ゼオライト充填による熱硬化性樹脂の耐食性コントロールに関する研究」について発表し、「若手技術者優秀発表賞」を受賞しました(写真2)。この時期は東京オリンピック2020開催前で新型コロナウイルス感染症が一時的に収まっている時期で、2年ぶりに対面形式で行われました(写真1)。この研究はプラスチックの分解に関するもので、現在問題となっている環境汚染を軽減する技術が評価されたものと思われます。また、この大会は企業で研究に携わっている方々の発表が多く、その中での学生の受賞は、後輩に勇気を与える結果となりました。

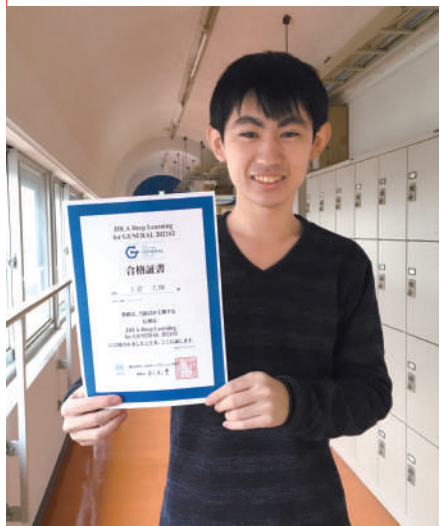


ディープラーニング協会主催の G検定に合格

【数理情報工学科】

上倉 大輝 Daiki Kamikura

上倉大輝さんがディープラーニング協会主催の「G検定」に合格しました。G検定・E資格は日本でほとんど唯一の人工知能(AI)についての資格で、近年大きく注目されています。その知識を活かして、卒業研究では株価データとツイッター情報の関連性を研究しています。卒業後はさらに研究を進めるために大学院に進学予定です。



ETNET2021で 優秀論文賞・優秀発表賞受賞

【数理情報工学専攻】

辻川 敦也 Atsuya Tsujikawa

辻川敦也さんは、組込み技術とネットワークに関するワークショップETNET2021において発表した「レジスタ転送レベルにおけるアンチSATに基づく論理暗号化法」で、情報処理学会システムLSI設計技術研究会から優秀論文賞と優秀発表賞を受賞しました。

第34回日本道路会議で優秀賞を受賞!

【土木工学専攻】

陳 安寧 Anning Chen

日本道路会議は、道路の行政・建設・維持管理・都市計画及び道路交通に取り組む全国の関係者が参画し、道路に関する広範な調査・研究の成果を共有して、広く発信することを目的に隔年開催される我が国最大の会議です。優秀賞は、道路技術向上の観点から独創性、有用性、信頼度、明解度に優れた論文に授与され、令和3年度では全6部門計532編の論文から、土木工学専攻の陳 安寧さんが発表した「アスファルト舗装の材料劣化と構造劣化の相互作用に関する基礎検討」(国研)土木研究所との共同研究による)が建設・施工技術(舗装)部門において優秀賞を受賞しました。



学生の活躍 Activities of Students

第32回全国理工科系大学 空手道選手権大会優勝！

【土木工学科】
佐々木 月 Runa Sasaki

はじめは「部活やサークルに所属したい!!」という気持ちで中学時代やっていた空手部の見学に行きました。武道場で練習している先輩たちが魅力的ですぐに入部を決め、3年次では女性初の主将を務めました。コロナで多くの大会が中止されましたが、全国理工科系大学空手道選手権大会で優勝することができ、また全国防具付き空手道選手権大会などでも入賞を果たしました。支えてくれた、両親、部活の仲間、先輩方、先生すべての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。この4年間、櫻魂空手部として活動できたことを誇りに思います。



電子情報通信学会 LOISグッド プレゼンテーション賞を受賞

【マネジメント工学専攻】
奥山 祥太 Shohta Okuyama

令和3年5月に開催された電子情報通信学会LOIS研究会において奥山祥太さん(マネジメント工学専攻・博士前期課程修了)は「視線特徴量から車酔いを判定するランダムフォレストの分岐解析」について発表し、「LOISグッドプレゼンテーション賞」を受賞しました。この研究は車酔いするかどうかを乗車中の視線動向からAIで自動判定し、さらにこの酔いを改善させることを最終目標としたものです。また、奥山さんは学部生の時にSKYCAMPに参加してパイロットライセンス取得を目指しましたが、COVID-19の影響により道が閉ざされました。その中で目指す方向性を新たに大学に進学し、研究に励んだ結果が今回の賞に結びついたものと思われます。さらに、これらの研究成果は学術誌 International Journal of Innovative Computing, Information and Control に掲載されました。



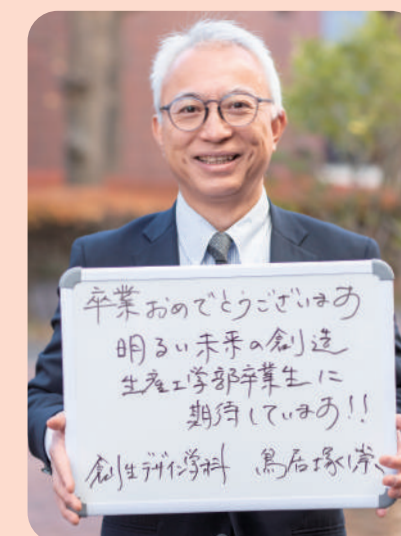
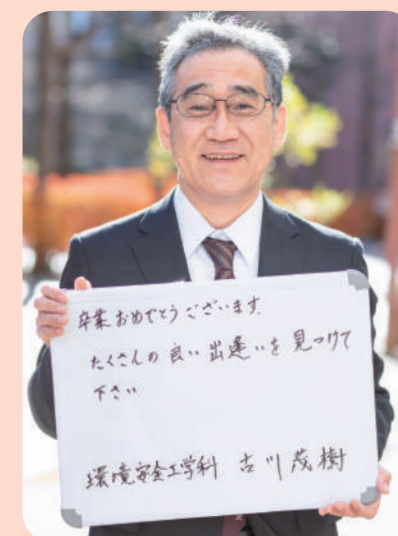
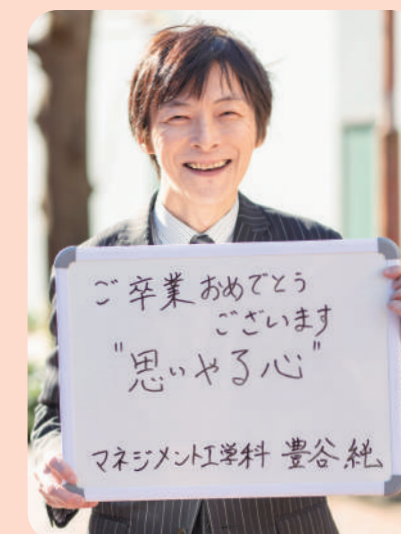
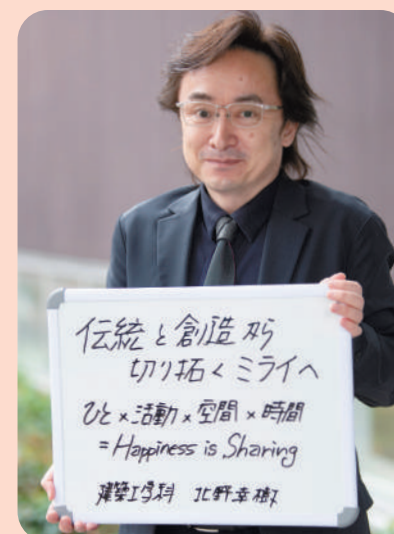
(写真)奥山 祥太さん



先生方に聞きました！ 卒業生に贈る

Words of congratulation ！お祝いの言葉！

生産工学部が誇る数多くの先生方を代表し、各学科主任から卒業生へ贈る言葉をいただきました。



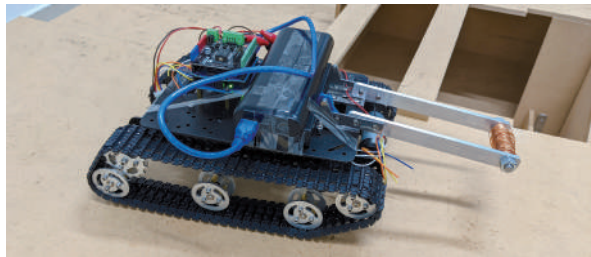
学科・系ニュース

機械工学科

プロジェクト演習・機械工学実験B

機械工学科の特徴的な授業としてPBL(Project Based Learning)教育が必修科目として設置されています。前期はプロジェクト演習の授業で、レスキューロボット、風力発電機、電動カートの3テーマに分かれて、コンセプト・アイデアを決めて、基本設計を行いました。後期は、機械工学実験Bの授業にて、前期の内容を踏まえて、実際に製作しています。

レスキューロボットのテーマでは、障害物の設置されたコースを走行し、その後缶を指定された場所に移動させることができるロボットを試行錯誤しながら製作しています(写真1)。1月19日(水)には競技会を実施しました。競技会の様子は学科HP(<https://www.me-cit.com/>)にて公開中です。



(写真1)レスキューロボット

ピアサポータ

ピアサポータ活動では、サークル活動などで活躍した4年生が主に1年生を対象に授業の質問などに答えてくれます(写真2)。3、4クォーターでは、材料力学Ⅰ及び演習、製作実習、3次元グラフィックス演習など1年生の必修科目に関する質問に対応してもらいました。1、2クォーターに続き、授業でわからなかったことや疑問に思ったことなどを対面形式でもオンライン形式でも質問できるようになっています(写真3)。



(写真2)ピアサポータの様子



(写真3)ピアサポータ オンライン対応の様子

土木工学科

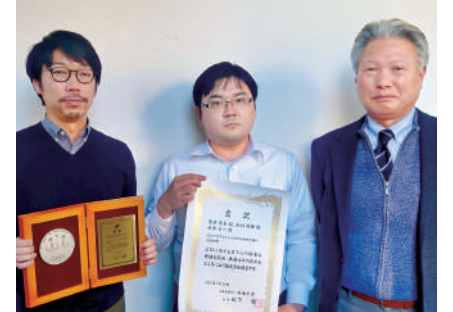
2年生対象の学外オリエンテーションを実施しました

令和3年11月に学部2年生を対象とした学外オリエンテーションを開催しました。場所は国土交通省が管理する「建設技術展示館」(松戸市)です。学生たちは午前と午後に分かれ、それぞれ20班の編成で20の企業等の屋内展示ブースと屋外展示を見学しました。インフラDX技術としてレーザースキャナーなどの新技術も体験でき、授業では知ることのできない土木の最新技術の一面を、学生たちは楽しみながら学ぶことができたと思います。来年度の生産実習や将来の進路についても考える良い機会になったでしょう。このような取り組みを今後も継続していきたいと考えています。



アスファルトの革新的な若返り技術に関する研究成果で石油学会論文賞を受賞しました

本学科の秋葉・加納研究室では、環境保全の観点から、副産物を活用した地盤改良技術や舗装材料のリサイクル技術の開発に積極的に取り組んでいます。なかでも、水の特異な溶媒物性を応用し、アスコン塊から骨材とアスファルトを分別・回収する再材料化技術は、研究を通じて多くの特許を取得し、平成30年度には土木学会から奨励賞を授与しています。近年では、舗装材料の持続的利用を支える一つの選択肢として、産官学連携のもと実用化研究にも着手し、今年度、水を用いてアスファルトを若返らせる革新的な技術を究明して、今回の受賞に至りました。これらの成果は、多くの卒業生諸兄に支えられ、結実したものであり、ここに改めて深く感謝申し上げます。



電気電子工学科

令和3年4月より2名の教員が着任されました

電気電子工学科に助教の佐々木真先生と助手の波場泰昭先生が着任されました。佐々木先生はデータ駆動科学や人工知能などの情報科学分野を、波場先生は負イオンビーム集束性とその応用についてそれぞれ研究されています。着任以降、お二人の先生には講義や実験、卒業研究などを通して学生の指導に尽力いただいております。どうぞよろしくお願い致します。



佐々木真先生



波場泰昭先生

チャレンジラボが完成しました

教育・研究を推進する上で、学生が自由に授業や研究以外でもモノづくりを行うことができる「チャレンジラボ」が31号館の2階に完成しました。チャレンジラボには電気電子工作が可能なハンドごてやニッパー、ラジオペンチ等の工具だけでなく、オシロスコープや回路基板加工機、機械加工のできるNC旋盤・NCフライス盤、ボール盤、レーザー加工機、3Dスキャナー、3Dプリンターなど多くの種類の機器を導入しています。今後も学生・世間のニーズに合わせたDX化を視野に入れ、さらなる装置・機器の導入や環境の整備を行っていく予定です。



建築工学科

一級建築士受験特別講座

令和2年度に一級建築士の受験資格要件が変更され、以前は受験要件だった実務経験が免許登録要件に変わりました。つまり大学卒業後2年の実務経験を経てからしか受験できなかった一級建築士試験が、大学卒業後すぐに受験できるようになったのです。そのため大学院生の中には在学中に受験にチャレンジする者が現れ、また学部生の中にも在学中から試験対策に取り組みたいと考える者が現れてきています。このような動きは今後ますます加速していくものと考えられます。

このことを受けて建築工学科では課外の取り組みとして「一級建築士資格特別講座」を開講しています。学生の受講の負担を極力下げるため費用を抑え、また授業が終わった平日の夜に大学内で受講できる講座にしています。現在は2年生から大学院生まで13名の学生が、他の学生たちが帰った夜の校舎で熱心に講座を受けています。

副研究のポスター展示

4年間の建築に関する学びの集大成として、昨年から全員が『卒業論文』、『卒業設計』の両方に取り組んでいます。今年から年度末まで時間をかけて取り組み方を「主研究」、3クォーターまでに終わらせるもう一つの方を「副研究」と称するようになりました。今年は副研究の成果を研究テーマごとにポスターに取りまとめ、11月に建築工学科の廊下・ギャラリーに掲示公開しました。「副」とはいうものの力のこもった成果物が並びました。主研究の方は、学年末に全員が審査会の場で成果発表を行います。4年生の皆さんの努力と成長の跡が見える発表が行われることと期待しています。



学科・系ニュース

応用分子化学科

早期卒業生第1号誕生へ

応用分子化学科では、物質デザイン・生命化学コースにおいて早期卒業制度を設置しています。制度開設から初めて、今年度の3年生が早期卒業に挑戦し、卒業を迎えようとしています。

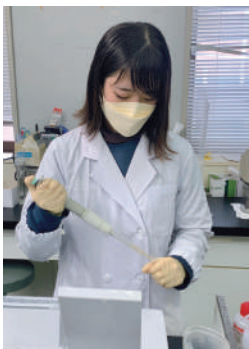
瀧 綾音さんは、入学直後に行われた応用分子化学科ガイダンスで、在学中に必要なたくさんの説明を受けました。そこで応用分子化学科に早期卒業制度があることを初めて知ったそうです。瀧さんはガイダンスでの説明を聞いた時から早期卒業制度に関心を持っていました。2年生の成績が出た2月ごろに担任から、自分の成績が早期卒業の条件を満たしていることを聞き、チャレンジしようと決心したそうです（早期卒業の条件にはGPAと単位数が定められています）。

初めからあまり深く考えない性格とのことですが、本来3年生を過ごす年に、3年と4年のカリキュラムを同時に進めて卒業を目指すことになるので、1年間で2年分の学生生活を送ることになります。第2クォーターの応用分子化学実験Ⅱ、第3クォーターの応用分子化学実験Ⅲに加えて、通年科目の生産実習を履修し、夏休みを返上して卒業研究を同時に取り組んできました。何より大変だったことは、あらゆる面で時間が足りなかったことですが、幸いなことに今年度も座学の一部はオンラインだったため、39号館まで足を運ばなくても授業を受けることができました。卒業研

究と並行して授業を受けるときに、研究室と教室の間を移動しなくてもよく、わずかな時間でも卒業研究を進めることができたとのことです。また、優秀な成績を維持するために、授業ではオンデマンドの動画を何度も見直し、理解を深めることができました。この点でもオンライン授業が瀧さんには合っていたようです。

また、瀧さんはジャズを演奏するリズム・ソサエティ・オーケストラでのサークル活動も行なっており、3年生ということもあって、サークルでの中心的な立場として積極的に取り組んでいます。学業と課外活動の両面で充実した学生生活を送ってきました。

瀧さんは卒業後、日本大学大学院生産工学研究科に進学し、現在所属している研究室で引き続き複合材料に関する研究を進められるとのことです。将来は材料開発の研究で社会に貢献したいと夢を語ってくれました。大学院に進学後の活躍も期待しています。



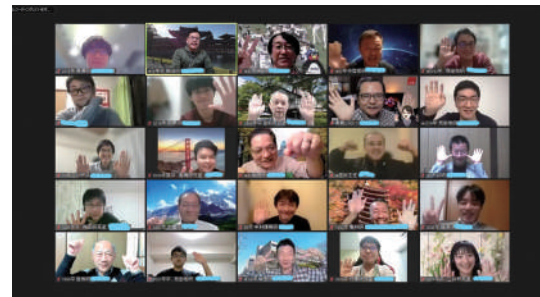
数理情報工学科

数理情報部会オンライン懇親会開催

11月6日(土)、生産工学部校友会「数理情報部会オンライン懇親会」が開催されました。数理情報工学科の卒業生・教職員あわせて30名が出席しオンライン懇親会は大変賑やかな会になりました。三宅修平数理情報部会長、見坐地一人数理情報工学科主任の挨拶に始まり、㈱東京技術計算コンサルタント 倉川清志社長の乾杯のご発声で懇親会がスタートしました。昨年好評だったチームに分かれてのクイズ大会、パワポを使った若手参加者の自己紹介、教員からの学科近況報告と、盛りだくさんなイベントになりました。また、校友会が大学に対してできることを話し合う場面もあり、世代を超えた様々な意見やアイデアがでて、大変有意義なひとときとなりました。

書籍出版

数理情報工学科の浦上准教授が執筆した書籍『セルオートマトンによる知能シミュレーション』(共著)がオーム社より出版されました。本書は、コンピュータの最も基礎的な部分から最先端の人工知能技術までを、0と1の世界でシミュレーションする方法を解説したものです。



環境安全工学科

2年生のオリエンテーションと教育研究活動

昨年度、新型コロナ感染症拡大に伴い新入生オリエンテーションを実施できなかった2年生に対し、一年半遅れですが11月10日に横浜にてフォトアドベンチャーとナイトクルージングを実施し、学生間の交友を深めました。オンライン授業が続いた学生にとっては、待ちに待った大学生らしいイベントとなり、皆さん笑顔でオリエンテーションを満喫していました。日帰りでソーシャルディスタンスを保ち、マスク着用と十分な換気など感染症対策を行いながらの実施となりましたが、友人を作る良いきっかけになったようです。

コロナ禍でも学生達は資格取得に積極的に挑戦し、成果をあげています。令和2年度宅地建物取引士資格試験に鶴澤研究室の小川剛瑠さんが合格し、令和3年度2級土木施工管理技術検定(国家資格)の第一次検定(学科試験)には、保坂研究室の井上琳太郎さん、川田喬太郎さん、木田優樹さん、戸村光亜さん、永瀬裕一さん、仲原康博さん、山崎研究室の岩間海洋さん、鶴澤研究室の矢部開斗さん、野中研究室の小松舜英さん、また昨年度の2級土木施工管理技術検定学科試験には、永村研究室の大澤拓海さん、塩出悠真さん、張ヶ谷茂樹さん、野中研究室の日高大輝さん、今村研究室の藤原美希さん、古川・南澤研究室の佐藤翔太さんの計15名が合格しました。

教員の活動として、秋濱一弘教授共著の「最新内燃機関(改訂版)」が朝倉書店より発刊されました。12月2日に開催された日本フライアッシュ協会講演会では鶴澤正美教授が特別講演を行うなど、教員の活動も活発になっています。4月からは高橋栄一教授(主要担当科目: 燃焼工学、移動現象論)、外山直樹助教(主要担当科目: 電気化学、材料化学、環境物質化学)が着任され、環境安全工学科の教育研究活動はますますパワーアップしています。

また、学科HPのトップページのリニューアルも行い、「マンガで紹介! 環境安全工学科」を作成し、受験生などへのPR活動も行っています。



マネジメント工学科

令和3年度のマネジメント工学科

令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策で、状況に応じて対面とオンラインを併用し授業を行いました。感染が落ち着いた4月には、新入生の親睦を深めるための学外オリエンテーションを千葉県富津市のマザー牧場で実施することができました。しかし、令和2年度入学者(令和3年度2年生)は、入学と同時に感染が拡大し授業もほぼ半年オンラインで行われ、前述した行事の実施が叶いませんでした。そこで感染状況が落ち着いた同年11月に2年生についても、マザー牧場で学外オリエンテーションを実施しました。入学して1年半以上も経過していたため、あまり期待をせず参加した学生もいましたが、広大な敷地で実施されたフォトアドベンチャーゲームが始まると友達と楽しそうに取り組んでいる姿を目にし、一同イベントを無事実施できたことに安堵しました。この状況が早く収まることを切に願っております。

令和3年4月より新任教員として植村あい子先生が助教として、柿本陽平先生が助手として着任いたしました。植村先生はコンピュータで音を分析・認識・生成する研究を専門に、授業は情報処理基礎とコンピュータ演習Ⅰ・Ⅱを担当しています。柿本先生は社会に存在する諸問題を数理最適化により解決するための研究を専門としています。お二人の今後の活躍をご期待ください。



(写真1)オリエンテーションの様子



(写真2) 柿本先生(左)と植村先生(右)

学科・系ニュース

創生デザイン学科

AOSUGE PROJECTが地元小学校PTAとコラボ

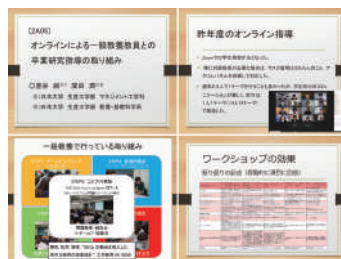
佐倉市と生産工学部との共同プロジェクト：旧佐倉市立志津小学校青菅分校保存・創生委員会(AOSUGE PROJECT)が、佐倉市立志津小学校のPTA組織－青菅小おやじの会様主催のスタンプラリーを共催しました。青菅分校はラリーのスタート・ゴール地点として位置付けられ、学生スタッフが青菅分校の歴史を小学生に伝えるための分校ツアー、創生デザイン学科が保有する移動型デザイン工房：ファブトラによるものづくりワークショップを開催しました。



教養・基礎科学系

間田准教授がマネジメント工学科豊谷教授と共同で行ったオンライン卒業研究指導の学会講演が発表賞を受賞

コロナ禍におけるオンライン研究指導は学生との接点が少なく、その結果、研究課題の検討が不十分になりやすい傾向にあります。その点に着目したマネジメント工学科の豊谷教授と教養・基礎科学系の間田准教授は、教養・基礎科学系において令和4年度設置予定のSDGs関連科目の中で展開される手法を発展させ、研究指導プロセスに組み込む取り組みをされました。具体的には、学生の研究課題ならびに研究手法をより明確化するべく、トレードオフとリソースの観点から問題発見および問題解決に関するワークショップが行われました。終了後の振り返りアンケートでは、全学生が卒業研究の方向性が具体的になったと回答するなど、高い効果が見られました。この研究成果は、第69回年次大会・工学教育研究講演会にて講演され、優れた発表に授与される「発表賞」を受賞されました。今後も専門学科と教養・基礎科学系の連携による教育の活性化が期待されます。



工学教育研究講演会での発表資料(一部抜粋)

高精度ゲノム解析成功に片山准教授も貢献

豊橋技術科学大学を中心とする9つの大学・研究機関から構成された研究グループは、植物の葉緑体の起源であるシアノバクテリアの網羅的かつ高精度なゲノム情報の整備に成功しました。本研究グループに参加された教養・基礎科学系の片山光徳准教授は、本研究の一部を担当し、ゲノム解析の成功に対して部分的に貢献されました。この研究成果は、「DNA Research」誌(オンライン版)に掲載されました。また、解明されたゲノム情報は全世界に公開されており、これを活用した基礎・応用研究の進展が期待されています。

本年度も校舎内のイルミネーションの設置を行いました

実習キャンパスでは毎年この時期、通学する学生に元気を与えるべく、イルミネーションを設置しています。暗くなるまで頑張っている学生の癒しになれば幸いです。



実習キャンパスの夜の風景

Information

日本大学生産工学部校友会の紹介

生産工学部の発足は現在の理工学部工業経営学科が新設された昭和27年にさかのぼります。そして、現在の生産工学部の名称になったのが昭和43年です。生産工学部校友会も生産工学部とともに歩んできました。昭和34年に教員と校友の親睦会が発足したのが始まりになります。翌年の昭和35年に「桜門工経会」の名称で校友会が発足し、昭和47年に現在の生産工学部校友会に名称が変更になりました。日本大学全体の卒業生は121万人を数えます。生産工学部校友会の卒業生も約9万人になり、様々な分野で、また、世界で活躍しています。大学を卒業しても校友会が卒業生と大学を強い「絆」で結んでいます。ここ数年、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大により開催できていませんが、学園祭の時期には「母校を訪ねる会」を校友会と生産工学部が共同で開催しており、卒業後10年毎のOBOGを招待し、後輩たちの活躍を見てもらっています。

校友会の主な活動を記します。まず、日本大学生産工学部校友会誌として、「桜生工」を年に1回発行しており、毎回、様々な特集とともに、校友会代議員総会の様子や各学科の近況、学内行事などについて掲載しています。最新の50号では各学科の特長的研究について紹介しています。

その他にも様々な活動を行っております。そのいくつかを紹介します。生産工学部には多くのサークルがあり、その活動資金の一部を校友会が補助しています。また、各学科にも活動資金の支援を行って

おり、その活動費の一部は在学生や大学院生の学会発表などの補助に使われています。その他、鳥人間コンテストや風力発電コンペ、キャンパスガイド表紙の審査および記念品、新入生や優秀卒業生への記念品など、数多くの支援をしています。生産実習の受け入れ企業や就職活動にも校友会が一役を担っています。

数ある支援の中で一番大きな支援は寄付金による学部支援になるのではないのでしょうか。今年度はCOVID-19拡大の影響により経済的打撃は想像以上のものでした。学生の家庭も例外ではありません。そこで、その対応の一環として、一昨年の令和2年7月14日に2000万円を生産校友会から寄付頂きました。現在までに生産工学部校友会からの寄付金は生産工学部奨学金基金1億2000万円と本部校友会日本大学創立130年事業1000万円、今回のご寄付で合計1億5000万円になります。特に、生産工学部奨学金基金は校友会奨学金として、経済的理由から修学困難な学生に対して有効に使われています。

このように、生産工学部と校友会は車輪の両輪のごとく協力しながら、生産工学部の学生を支援しています。

日本大学生産工学部校友会ではホームページも開設しているので、是非、時間のあるときにご覧ください。また、校友会事務局は津田沼校舎2号館食堂に隣接していますので、お時間のある時にお気軽に尋ねて下さい。

生産工学部校友会ホームページ:<http://seisan.nihon-u-koyukai.com/>

皆さんも、卒業したら校友会活動に参加し、後輩や母校のため、そして、自身の活動範囲を広げてはみませんか。



令和2年7月14日に行われた寄付金贈呈式



母校を訪ねる会懇親会



令和3年度 代議員総会



桜生工vol.50表紙